

アニメアフレコを利用した音声教育を重視する日本語授業

湯文明

(専修大学 大学院)

今、日本語のアニメはサブカルチャーとして世界中で脚光を浴びており、日本語学習者の多くは、アニメをきっかけに日本語の学習をし始めると言われている。日本語教育においても、アニメは海外での日本語学習者の大きな動機付けの一つとして注目されている。実際、アニメを題材とした教科書や、アニメを取り入れたコースデザインなどの事例を目にするようになってきた。その背景を探ってみると、アニメの中の日本語はとても美しく、キャラクターの個性、シーンごとに視聴者に、表現しようとするメッセージや感情を見事に現実のように実感させてくれるので、自分もこのような日本語ができればいいと多くの学習者が語っている。そこで、学習者のニーズ、モチベーションを考慮しつつ、日本語の表現にフォーカスを置き、アニメアフレコに特化した日本語の授業形式をデザインした。

今回は、アニメアフレコに使用するソフトをいくつかを用いて、教師はあくまでサポート役という視点に立ち、学習者と教師が共に活動し、表現言語教育に活かせる方法と、そのソフトを具体的にどのように活用すればよいかについて発表したい。

授業の進め方は以下の通りである。

- ①作品選び
- ②台本作製
- ③課題作り
- ④アフレコ開始
- ⑤相互評価
- ⑥原作提示
- ⑦教師によるコメント

今回、使用したソフトは次の二つである。

- ①Adobe Audition (オーディオ編集)
- ②Edius (映像編集)

発表では、操作の詳細も説明し、出来上がった作品の一部を紹介する。

以上から、学習者のニーズに応え、アニメアフレコを通じて、学習者と教員が「協働」によって、表現言語教育を目指すことができるのではなかろうかと期待できる。